

# 桃太郎は何故こんなにも長く語り継がれているのか？

3年1組16番 重里美佑

## 1. はじめに

「若者の本離れ」が加速している事が社会的に問題だと考えられている。その理由の一つとして「読書が楽しくないから」だ。※1しかしながら、「若者の本離れ」が起こる事により今まで語り継がれてきた昔話を後世に残す事ができなくというのにも関わらず、昔話を変化させることによって後世に残す事についてフォーカスして詳しく研究された例はない。

人は幼少期などで1度は読み聞かせをしてもらった経験があると思う。私ももちろん、そのうちの一人だ。その時、どの昔話を読んでもらったか覚えているだろうか。私は先人の知恵ゼミに所属し、テーマについて考えた時、ふと読んでもらった昔話について思い返した。そうすると、『桃太郎』などの誰もが知っているような昔話ばかりだった事に気が付いた。そこからだんだんと昔話に興味湧いてくるようになり、調べているうちに「このままでは、あまり有名ではないお話からどんどん語り継がれなくなり、最終的には昔話という存在すらも忘れられてしまうのではないかと考え、私はそれを食い止めるべく研究をはじめた。

## 2. 序論

本研究では、「昔話を語り継がれやすくするために何をすべきか」という問について明らかにする事を試みる。これによって、SDGsの10-2「2030年までに、年齢・性別・障がい・人種・民族・生まれ・宗教・経済状態などに関わらず、全ての人が、能力を高め、社会的、経済的、政治的に取り残されないようにすすめる」や、4-7「2030年までに、教育を受ける全ての人が、持続可能な社会を作っていくために必要な知識や技術を身につけられるようにする。そのために、例えば、持続可能な社会を作るための教育や、持続可能な生活の仕方、人権や男女の平等、平和や暴力を使わないこと、世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解出来る教育をすすめる」などの解決につながる知見が得られる可能性がある。

問いを明らかにするために、人気がある昔話の現在の姿とオリジナルを比較し、どう変化した事により、人気であるのかを調査する手法を取り入れた。調査方法について説明する。先行研究として読んだ立石展大氏の「昔話の変遷～桃太郎を例として～」で取られた手法を参考にし、教室にアンケートを設置し、ランダムに生徒に意見を聞くという方法をとった。そのアンケート結果とオリジナルを比較し、データ化を行った。アンケートは2回行ったが、1回目は44名、2回目は33名の生徒が回答してくれた。また、オリジナルといわれている話が多くある中で、小池藤五郎氏が書かれた「桃太郎説話の研究」という論文を読んだ際に、明治以前の桃太郎に関する項目があり、そこからオリジナルとされている作品を選出した。その項目の中で、比較的古いもので綺麗な状態で残っており、オンラインでも全文読む事ができる、天明8年に書かれた『古事附桃太郎話』を選んだ。それ以前に書かれたであろう桃太郎のお話は現在まで伝わっているものは少なく、火事などで多くが焼けてしまったようだ。

桃太郎は、桃から生まれた男の子が、鬼退治に行くお話で、その道中にキビダンゴを譲渡し、犬・猿・キジを仲間にする。全員で協力して戦うことで、鬼退治は無事大成功に終わるという物語で、日本五大おとぎばなしの一つであるほど有名だ。であるから、アンケートも収集しやすく、データが取りやすい。持続可能な社会にする為の解決につながる知見が得られる可能性があるうえに、論文を作成する為のデータとして裏付けすることも可能である。

## 3. 本論

1回目のアンケートでは「桃太郎の好きな場面」に絞って調査した。結果は次の通りである。アンケートの結果、「キビダンゴを与える」「鬼と戦う」「桃太郎が鬼を倒す」「桃から子供が生まれる」「桃を割る」「動物と仲間になる」この六つを回答した人が多く見られた。集計した六つの場面を、

『古事附桃太郎話』と比較したところ、古文と現代という違いはもちろんあるが、内容に大幅に違う点はなかった。そこで私は内容だけでなく、表現など細かい部分まで比較することにした。すると、オリジナルとする話は現在の桃太郎より形容詞が少ないことがわかった。物事が変化する時は必ず理由がある。このことから、“形容詞を使ってお話にインパクトを与えることで、より印象に残りやすく、誰が読んでも面白いと感じるのではないか”という仮説を立てた。

昔話を未来まで語り継ぐには、より多くの人々の記憶に残る必要がある。特にこれからの未来を生きる子供たちには具体的に説明する必要がある。そこで私は、現在よく知られている昔話は子供から大人まで幅広い層に人気になるように多くの形容詞を使用しているのだろうと考えたのだ。例えば、「川から桃が流れてきました。」という文と、「川から大きな大きな桃が流れてきました。」という文では、どちらの方が印象的だと感じるだろうか。多くの方が後者である「川から大きな大きな桃が流れてきました。」という文の方を選ぶだろう。「桃」とだけではどのような桃かがわからず、また印象に残りにくい為、面白味にかけるからだ。私はこの質問をどの発表の場でも問いかけたが、過半数以上の方が後者を選択していたことから、この考えが正しいことが分かる。

これらの考察から、マイナーな昔話も形容詞を増やし、ダイナミックさをプラスする事で話によりインパクトを残す。私の仮説が正しければ、このことが長く語り継ぐための方法の一つである。これが正しいか否かを判断する為にも、マイナーな昔話に形容詞を追加するなどインパクトを残すように変化させ、変化後の印象はどのようなものか。どちらの方が印象的で面白いと感じるのかを調査した。

そこで私は、変化させる対象の昔話を『玉水物語』という物語に定めた。方法として、『玉水物語』を現代語訳されたものを要約し、その要約文に形容詞を足した文を作成し、アンケート1回目と同様の方法でアンケートを実施してこの二つの文を読んでどちらの方が面白いと感じたかとどちらの方が印象に残ったかという二つの質問に回答してもらう。それを集計し、データ化した。

『玉水物語』のあらすじを説明する。ある日、人間の姫君に恋したキツネが何としても彼女のそばに居たいと考えるのだが、キツネと人間が結ばれると人間は死んでしまうという掟がある為、キツネは人間の娘に化けて姫君のそばにつかえるという純愛物語だ。最後までキツネと姫君は結ばれることはなく、突然キツネが忽然と姿を消して幕を閉じる。最愛の人と結ばれることが出来なかったバッドエンドと読み取ることが出来るが、これからも、それぞれの地で相手のことを思いながら過ごせるというハッピーエンドとも読み取ることが出来る物語で、室町時代ごろに成立したとみられるが、作者は不明である。

次のように形容詞を付け加えた。「姫君が十四、十五歳になり、花と戯れていると、あるキツネが彼女のその姿を見て恋に落ちました。」という文を「姫君が十四、十五歳になり、花と戯れて楽しそうに遊んでいると、ある一匹のキツネが光り輝くように美しかった彼女のその姿をみて、たちまち恋に落ちました。」というように、読み手に対してインパクトをより残せるように所々に挿入した。この一文だけでも強く印象が変わったと感じるのではないだろうか。二回目のアンケート結果は次の通りである。どちらの問いにも形容詞をプラスした方の物語を選んだ人が7割を超える結果となった。

このアンケート結果から、“形容詞を使って話にインパクトを与える事で、より印象に残りやすく、誰が読んでも面白いと感じるようになる”という仮説は正しいという結論に至った。よって、「マイナーな昔話を語り継ぐための方法の一つとして、形容詞を増やし、ダイナミックさをプラスする事でお話によりインパクトを残す」ことも正しいことが分かった。

#### 4. 結論

この二年間の研究を通して出した結論は「昔話に形容詞をプラスする事で、現代の人々の興味を唆り、語り継がれやすくなる」ということだ。今後の展望としては、これらの事を踏まえて進学先などで「この結論で出たことを応用する事で、長尺の昔話も人々の興味を唆るような、今まで以上に面白い物語になるのではないかと」と「これらの事は、昔話以外に応用できるのか」という二つ

の事について研究をすすめたいと考えている。これらの事が実現するならば、持続可能な社会にまた一步近づくことができるからだ。

後世に残すべき物語は全てが絵本になるような短いお話ばかりではない。今回は昔話にフォーカスして研究してきたが、小説などの長いお話にもこれらの事が応用できるのであれば、多くの種類の物語を語り継げるようになると思う。物語は、人々から変わらないものとして親しまれている。が、それは少し違ふと私は考える。物語は「変わらないもの」であり続けるために変わり続ける。その変化こそが、持続可能な社会へと繋がる第一歩なのだろう。

語り継がれる、という事は目に見えることでは無いため、良くも悪くも実感しづらいだろう。であるから、SDGsの10-2「すべての人が能力を高め、社会的・経済的・政治的に取り残されないようにすすめる」や4-7「教育を受けるすべての人が、そのために、さまざまな文化がまあることなどを理解できる教育をすすめる」という課題の解決に大きく貢献できるのではないだろうか。昔話には昔の人の学びや教訓が詰まっています、後世にそれをこれからも長きに渡り伝えるために作られたもので、いわば「先人の知恵」なのだ。それを学ぶということは「すべての人が能力を高められるようにすすめる」ということにも、「さまざまな文化があることを理解できる教育をすすめる」ということにもつながる。目に見える変化はあまり感じなくとも、物語をまなび、知り、語り継ぐことは持続可能な社会につながるのだ。どの物語にも作者の意図があり、作られた理由がある。また、物語をこれまで以上に面白いと感じられるようになれば、「楽しくないから」と本を読まなくなった若者を中心に、少しずつかもしれないが、本を読む人が増加すると思う。

これからも研究をすすめ、昔話以外の話にも応用できるようになれば持続可能な社会につながると共に、社会的問題である「若者の本離れ」の解決の糸口にもなりうるだろう。だがしかし、今後の展望としてあげた二つの事はまだ仮説の段階であるため、検証し、結果を裏付けるデータを収集しなければならないのが今後の課題だ。

## 5. おわりに

私は今回この研究でゼミ代表として、国際高校が主催する高校生国際会議に出席し、プレゼンテーションをさせて頂けることになった。この研究は目で見てわかる事実にはフォーカスしておらず、直ぐに結果が出にくいので、今のような現状にあるのかも把握しづらい。そんな研究テーマでも代表に選出して頂けたということは、社会にとっても大切な課題だということに違いない。また、この発表を自校の生徒だけでなく、他校の先生方や海外在住の方々にも見ていただき、「着目点」等について沢山のご意見を頂けた。私は元々自分自身に自信がなく、この研究についても「果たして本当に持続可能な社会に貢献できるのだろうか」と考える事が多々あった。だが、色々な方々に研究を共有し、ご意見を頂いている中でふつふつと自信が湧いてきた。

この2年間、私は人より物事をこなすのに時間がかかる事もあり、この研究に多くの時間と労力を費やした。日々の生活の中だけでなく、スタディーツアーでも多くの事を学ばせていただき、研究の参考にさせて頂いた。また、私は1年間小西さんと共に研究をすすめてきた。1回目のアンケートや、アンケート結果をデータ化し、オリジナルと比較する等を協力して行った。この研究は私一人の力では到底すすめることができなかった。この研究の中で私は多くの力を身につけることが出来た。探究力や超戦力、情報収集力だけでなく、コミュニケーション力や協働性等グループワークを経験しなければ獲られなかった力も身につけることが出来た。私は将来医療関係に携わりたいと考えている。医療従事者にはこれらの能力が必要不可欠である。これらの力を生かし、今後の進路に繋げたいと思う。また、進路だけでなく、日々の生活にも生かせるように、社会の為にこれからも探求を続け、いつか「SDGs」だけでなく「若者の本離れ」などの社会的問題の解決に大きく貢献できるような成果を出したいと考えている。

## 6. 参考文献・出典

【先行研究】

立石展大『昔話の変遷-「桃太郎」を例として-』2016年8月17日 (最終アクセス2022年7月25日)

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/stmlib/42/0/42\\_KJ00006934359/pdf-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/stmlib/42/0/42_KJ00006934359/pdf-char/ja)

小池藤五郎『古文献を基礎とした 桃太郎説話の研究上』1967年2月15日 (最終アクセス 2022年 8月3日)

[https://rissho.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_action\\_common\\_download&item\\_id=2119&item\\_no=1&attribute\\_id=20&file\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://rissho.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_action_common_download&item_id=2119&item_no=1&attribute_id=20&file_no=1&page_id=13&block_id=21)

若者の本離れについて】※1

角田陽一郎『「若者の本離れ」がこんなにも加速した5つの理由』東洋経済オンライン 2020年3月1日 (最終アクセス 2022年 9月20日)

<https://toyokeizai.net/articles/-/330115>

SDGsについて】

SDGs17の目標 SDGsクラブ-日本ユニセフ協会 (最終アクセス 2022年 9月18日)

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/#>

古事附桃太郎話】

ジャパンサーチ (最終アクセス 2022年 9月20日)

[https://jpsearch.go.jp/item/arc\\_books-MMT0019](https://jpsearch.go.jp/item/arc_books-MMT0019)

玉水物語現代語訳】

挿絵とあらすじで楽しむお伽草子 第1話 玉水物語 京都大学貴重資料デジタルアーカイブ (最終アクセス 2022年9月8日)

[https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00013653/explanation/otogi\\_01](https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00013653/explanation/otogi_01)